

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 378 号	氏名	千葉 恒
学位審査委員	主査	川上 純	
	副査	平野 明喜	
	副査	工藤 崇	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究の目的は、変形性股関節症に対する、multi-detector row CT(MDCT)を用いた骨硬化の病態を解析することであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 47 股関節を対象として、内わけは変形性股関節症 20 関節(末期 11 関節、初期 9 関節)、臼蓋形成不全(変形性股関節症の原疾患)7 関節、健常 20 関節で全例女性である。CTは 16 列 MDCT、骨梁構造計測は骨形態計測ソフトウェア(ラトックシステムエンジニアリング)を使用している。これらを用いて関節裂隙体積と軟骨下骨梁構造との相関関係を解析し、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、関節裂隙が減少するほどに、骨梁体積と骨梁幅は増加し、骨梁数と骨梁間距離は減少し、骨梁は板状・蜂巢状化し、連結性は増加し、異方性は低下した。その変化は、臼蓋形成不全のみでは出現せず、初期 OA から徐々に出現し、末期 OA で著明となることが明らかとなった。今後の新たな画像診断研究並びに骨力学的研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は変形性関節症の骨硬化の病態研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			